

深川市地域公共交通活性化協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

深川市は、北空知圏域をはじめとする広域連携によるまちづくりを推進しており、周辺市町とネットワークするバスや鉄道は、北空知圏域の住民をはじめ、隣接する市町住民の通学や通院、買物等の足として重要な役割を果たしている。

市内循環線は、JR深川駅、各病院、公共施設、商業施設などの主要施設や、まちなかの住宅密集地などを結び、市内移動の基幹的な役割を果たすとともに、周辺市町と深川市を結ぶ広域路線に接続する重要な位置づけにある。

また、今後さらに高齢化が進む中で、高齢者などの交通弱者の移動手段を確保することも重要な課題となっている。よって、さまざまな対策を講じることにより公共交通の利用促進を図るとともに、公共交通の利用者数を維持改善し、併せて交通事業者及び市の負担軽減に努めるなど、持続可能な公共交通網の形成を図るためには、市内循環線は極めて重要な路線であることから、確保・維持する必要がある。

生活交通確保維持改善計画の目標

人口減少に負けないまちづくりを実践する観点により、市内循環線の年間利用者数を実証実験時から比較し維持させる。

(実証実験時の年間利用者数(平成30年4月～平成31年3月): 17,621人)

令和2補助年度事業概要

市内循環線(深川市役所先回り、生きがい文化センター先回り) ※R2.4.1経路変更 → (深川西高校方面先回り、あけぼの方面先回り)

起点: 深川市立病院前

終点: 深川駅前

運行日数: 362日

運行回数: 3, 174回

地域公共交通の現況

- ・JR函館本線、留萌本線(深川駅、納内駅、北一已駅)
- ・空知中央バス(株)(広域路線5路線、市内路線4路線)
- ・北海道中央バス(株)(都市間バス1路線、広域路線1路線)
- ・道北バス(株)及び沿岸バス(株)(広域路線1路線)
- ・ジェイ・アール北海道バス(株)(広域路線1路線)
- ・タクシー事業者3社(音江ハイヤー(有)、新星ハイヤー(株)、(有)納内ハイヤー)

協議会開催状況

- 令和2年 6月12日 (令和2年度第1回: 書面会議)
【主な協議事項】
 - ・地域内フィーダー系統確保維持計画の策定について
- 令和2年11月16日 (令和2年度第2回)
【主な協議事項】
 - ・デマンド交通の実証実験(素案)について
 - ・深川市地域公共交通網形成計画の評価・検証及び計画期間の延長について
- 令和3年1月18日 (令和2年度第3回: 書面会議)
【主な協議事項】
 - ・令和2補助年度地域内フィーダー系統確保維持計画における事業評価について

令和2補助年度事業の実施状況

1) プロセス、創意工夫

・満70歳以上の市民を対象とした高齢者バス利用料金助成事業の実施により、利用促進を図った。

・試験運行を含めた2年の運行を経て、さらなる利便性の向上を目的とし、運行経路の見直しを行った。(R2.4.1~)

・また、運行経路の見直しに伴い、新たに周知用のパンフレットを作成し、周知に努めた。

・地域住民等を対象とした「路線バス乗り方教室」を市内5地区で開催し、路線バスの乗り方説明や路線バス乗車を体験してもらい、「循環線」の利便性や運行経路などについて知ってもらう機会となった。

R1.10.1~R2.3.31



R2.4.1~R2.9.30



2-1) 運行系統

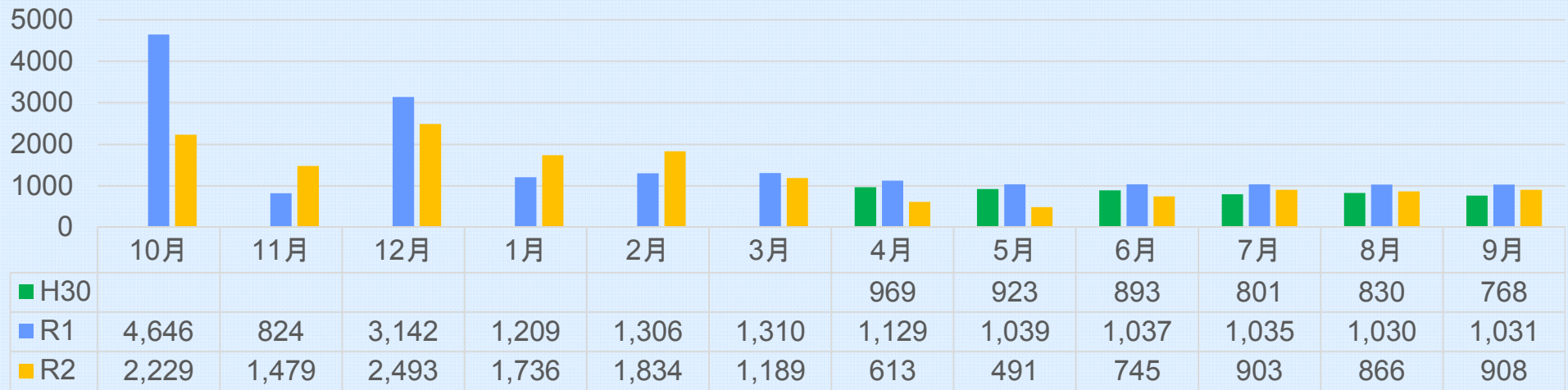
■R1.10.1~R2.3.31

- ・深川市役所先回り (1日5便)
- ・生きがい文化センター先回り(1日5便)
- ※冬ダイヤ(R2.12.1)より土日祝便については、1日4便となっているもの

■R2.4.1~R2.9.30

- ・深川西高校方面先回り (1日4便)
- ・あけぼの方面先回り (1日4便)

3) 利用実績【月別利用者数（人）】

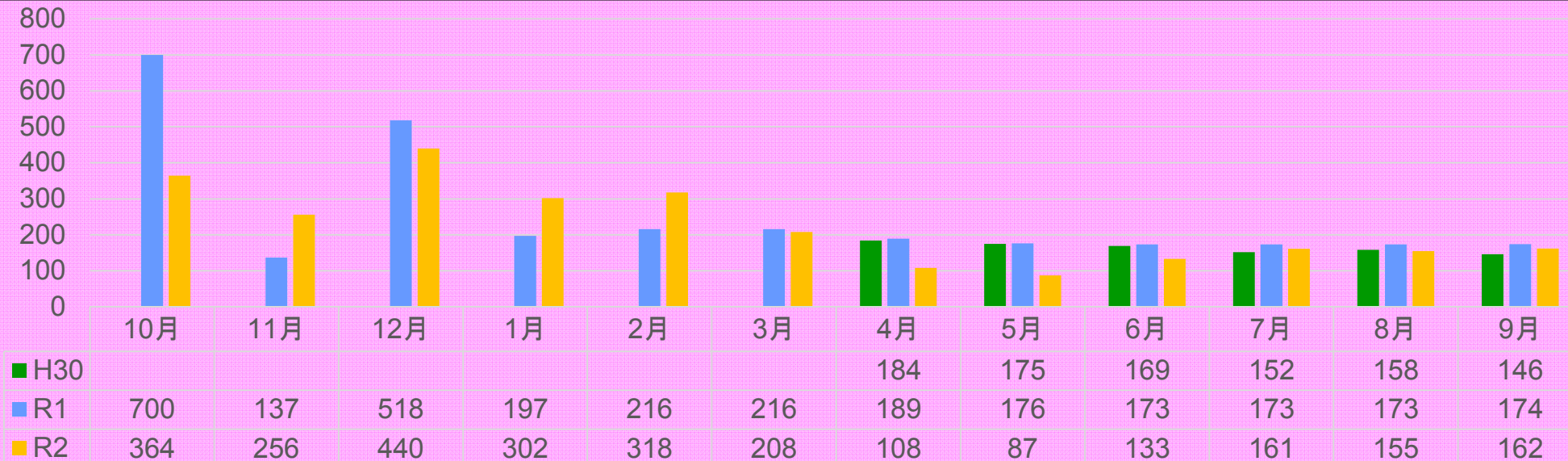


・ R 1 (H30.10~R1.9) 年間18,738人

・ R 2 (R1.10~R2.9) 年間15,486人

※実証実験時(H30.4.1~H31.3) 年間17,621人

4) 収入実績【月別運送収入額（千円）】



・ R 1 (H30.10~R1.9) 年間3,041千円

・ R 2 (R1.10~R2.9) 年間2,694千円

※実証実験時(H30.4.1~H31.3) 年間2,967千円

5) 事業実施の適切性

計画どおりの運行がなされ、適切に事業が行われた。
なお、目標達成に資する事業として実施した、満70歳以上の市民を対象とした高齢者バス利用料金助成事業(通常運賃よりも安価に路線バスを利用することができる乗車券を販売)においては、販売窓口を追加したことなどにより、利用者が増加傾向にあり、路線バスの利用促進に一定程度の効果があったと評価している。

6) 目標・効果達成状況

【目標】

人口減少に負けないまちづくりを実践する観点により、市内循環線の年間利用者数を実証実験時から比較し維持させる。

・実証実験時の年間利用者数

(平成30年4月～平成31年3月): 17, 621人

・令和2補助年度の年間利用者数

(令和元年10月～令和2年9月): 15, 486人

【達成状況】

定期券の利用が減少したことや、3月以降は新型コロナウイルス感染症拡大防止による外出自粛等の影響を受けたことなどにより目標達成には至らなかった。

7) 事業の今後の改善点

利用者等から寄せられた意見や要望をもとに、令和2年4月1日に運行経路及び運行ダイヤの見直しを図ったが、新型コロナウイルスの影響により、同年4月以降における利用実態からは見直しによる効果については、判断がつかない状況。

したがって今後も続くと予想されるコロナ禍における、地域ニーズの把握に努めるとともに引き続き運行経路・ダイヤの見直しなどの、利便性の向上及び収支改善に努める。

8) 地方運輸局における二次評価結果

(令和3年度分と併せて評価)